

月刊

食品工場長

10

OCTOBER

食品の生産拠点を支援する情報誌

2026

No.354

TOP
INTERVIEW

ト ッ プ イ ン タ ビ ュ ー

(株)日清製粉グループ本社

取締役社長

永木 裕氏



日清製粉 水島工場

四半世紀ぶりのグループ大改革
「自立と連合」の下、
世界で戦える事業体へ



特集 食品工場のスマートファクトリー化と省力化・自動化2026

展示会特集1 TOKYO PACK 2026 東京国際包装展

展示会特集2 中部食品産業創造展 '26

新工場紹介 マルビ食品(株) 東松島工場

増ページ!

霞ヶ関キャピタル株

1万パレット収容可能、DX化した次世代冷凍自動倉庫

「LOGI FLAG TECH 東扇島 I」

霞ヶ関キャピタルは神奈川県川崎市川崎区東扇島に冷凍自動倉庫「LOGI FLAG TECH 東扇島 I」を開設し、グループ会社のX NETWORK株式会社を通じて荷物の受け入れを行っている。三菱商事都市開発㈱と共同開発した施設で、老朽化した冷凍倉庫が多く、人材確保も課題となる国内最



「LOGI FLAG TECH 東扇島 I」外観

大の冷凍倉庫集積地に、自動化・省人化・DXを取り入れた新たな施設を投入した。

最大の特徴は、1パレット単位に必要な期間、必要なスペースだけ利用できる冷凍保管サービスCOLD X NETWORK。独自のプラットフォームにより、荷主は専用サイトからスペース予約、出荷依頼、在庫・請求書管理などをウェブ上で完結できる。施設は鉄骨造3階建てで、敷地面積約5000㎡、延床面積約2万㎡。3階の冷凍保管エリア全面に自動ラックシステムを設け、1万パレットを収容する。保管温度は-22℃。庫内の日常作業をなくし、通常30人前後を要する規模を10人前後で運営できるという。自然冷

-22℃帯での作業の自動化・省人化を実現する冷凍自動倉庫



媒設備や太陽光パネル608枚も採用する。

同社グループは今後、WMS（倉庫管理システム）やロボットなどをつなぎ、物流データを統合・可視化する共通基盤「物流OS」を構築する。2026年中に実証実験を始めるほか、9月には埼玉県所沢市～仙台市間で冷凍幹線輸送サービスを開始。将来は倉庫やトラック、船舶、海外拠点までネットワーク化し、複数拠点を一つの倉庫のように利用できる物流体制の構築を目指す。

エー・エム・プロダクツ㈱

夜間・無人時の充電中のリチウムイオン電池発火による火災リスクを抑制

「リチウムイオンバッテリー チャージングキャビネット」

DX化の推進によりタブレット端末をはじめリチウムイオン電池を内蔵した機器の導入が増える一方、リチウムイオン電池の発火による火災リスクが高まるのが懸念されている。特に食品工場の場合、リチウムイオン電池の劣化の原因となる最高許容周囲温度45℃を超える過酷な環境も多く、安全対策は急務となっている。こうした火災リスク対策として注目を集めているのが、エー・エム・プロダクツが販売を手がける「リチウムイオンバッテリー チャージングキャビネット」だ。

同キャビネットは固定棚付きの庫内に8口の電源タップを設け、複数のバッテリー充電が可能。厚み18ゲージ（約

1mm）のスチール製の溶接構造で、高い耐久性を誇る。また、全ての壁面が38mmの空間を持つ中空二重構造になっており、発火時の高熱を遮断する。

最大の特徴は「ChargeGuard™システム」。キャビネット側面には充電時に庫内の温度が上昇しないよう「庫内温度調整ファン」が設置されているが、万一の発火時に備え、開口部には炎を封じ込める「フレーム・アレスター（消炎金網）」や内部温度が57℃に達すると自動で閉じる「自動遮断ダンパー」が設置されている。さらに、扉の通気パネルには爆発力の影響を減衰させる「圧力リリーフ機構」、有毒ガスを吸収する「有毒ガス吸着



「リチウムイオンバッテリー チャージングキャビネット」。耐荷重量約29.5kgの固定棚と、棚板に設けられたケーブルホールにより、複数のデバイスを整理して配置できる

フィルターシステム」なども搭載されている。同社では「供給電流が15Aを超えた場合、ブレーカーが自動で作動するよう設計されています。翌朝の始業に向けて、安心して夜間に充電いただけます」と話している。